

総合的な学習の時間 「福祉体験教室・手話体験」

相模原市立くぬぎ台小学校



単元（題材）目標

- 様々な立場の方について理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 自分の思いや考えを伝える手段には手話があることを知り、障がいについて関心を持ち、理解を深める。

(1) 実施時期 11月中旬

(2) 対象（学年等・人数） 第3学年 61名 学校職員 3名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：相模原市社会福祉協議会「みんないい人体験教室」
講師 6名（聴覚障がいの方 2名、手話サークルの方 4名）



(4) 実施内容

- ① 講話：「聴覚障がいについて」（手話グループ 21名 1時間）
 - ・ 先天的な聴覚障がいのある方と中途失聴の方から話を聞く。
 - ・ 聴覚障がい者が困ることや生活での工夫について（手話通訳あり）。
 - ② 手話体験：（手話グループ 21名 1時間）
 - ・ 手話グループ21名に講師6名（聴覚障がいの方2名と手話サークルの方4名）
 - ・ 簡単な会話（あいさつ、自分の名前等） ・ 手話に関する基本的知識
 - ・ 指文字による五十音の表し方
 - ・ 聴覚障がい者とのコミュニケーションの取り方（口話、身振り）
 - ③ 「体験して感じたこと・思ったこと」をまとめ、「これから自分にはどのようなことができるのか」という視点から振り返った。
- ※ 相手の立場にたって物事を考えられるよう、また、共に生きていく仲間であること、困ったときに手をさしのべられるような指導を心がけた。

(5) 成果

- 手話が聴覚障がい者のコミュニケーション手段であることを知り、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。
- 手話に興味を持ち、手話で簡単なあいさつや自分の名前を伝えられるようになった。

〈児童の感想 一部抜粋〉

手話は耳の聞こえない人にとってコミュニケーションの一つだと気がついた。電車が止まったときなど、耳が聞こえない人が困っていたら、手話や要約筆記や口話などで状況を伝えてあげたいです。

(6) その他

手話体験をしていないグループの児童に、聴覚障がい者のことや体験してわかったことを伝えた。また、習った手話を教えた。